

こ しんにちは つるおか

No. 107

人生を明るく楽しむ“足し”に

しょうふくてい しょうすけ
笑福亭 笑助 さん



落語家。吉本興業(株)による「あなたの街に住みますプロジェクト」の「山形住みます芸人兼東北住みます落語家」として、2014年に山形市へ移住し、地域に密着した芸能活動を展開している。やまがた特命観光・つや姫大使。「鶴岡市合併・市制施行10周年記念事業 いのちのコンサート 森と水そして月光のしらべ」の爆笑寄席に出演するため来鶴。大阪府出身。

子供の頃にテレビで見たお笑い芸人に憧れ、こんな仕事をしたいと思いました。お笑いのまち「大阪」という土地柄もあり、お笑いに携わる仕事として落語家を選びました。好きなことを仕事にできる自分は本当に幸せ者だと思えます。

落語は、落語家の語りと身振り・手振りに笑いを交え表現する架空の物語です。その物語には人生を楽しく生きるためのヒントのようなものが含まれています。落語家は、物語をのぞき込むためのレンズのようなもの。物語がより鮮明なものになるよう、せりふの言い回しや発声方法、扇子や手拭いを使った落語独特の所作など表現の技術を繰り返し稽古します。何より一番大切にしていることは人間を磨くこと。「芸は人なり」という言葉がありますが、レンズとなる落語家自身が面白ければ、そのレンズを通して見える物語の世界もまた面白いものになります。やっぱり楽しいことや面



寄席の様子（6月14日／朝日南部コミュニティセンター）

白いことがたくさんあった方がいいじゃないですか。自分の落語を聞いてなんとなく楽しく、気持ちが明るくなってくれればと思います。「落語の楽しみ方はこうだ」といったこだわりや押し付けの気持ちは一切ありません。人生を楽しく笑って過ごせる“足し”になればうれしいです。

住みますプロジェクトに関わり、山形に来て1年がたちました。県内のいろいろな土地に行き、地元の人と触れ合い、山形のが大好きになりました。6月20日の寒河江市での寄席を皮切りに「笑福亭笑助のやまがた35市町村落語めぐり」がスタートしました。各市町村を巡りながら、その土地のいいもの・いいところをもっと発見したいと思っています。住んでいる人には当たり前過ぎて普通のことでも、外の人には「すごくいいもの」が実はたくさんある。そんなすてきな出会いを楽しみにしていますし、出会ったいいもの・いいところをPRしていきたいです。

起こります。

◆**症状** めまい、立ちくらみ、こむら返り、大量の発汗、吐き気・おう吐、けん怠感など。重症になると、意識障害やけいれんなどが起こります。

◆**熱中症とは**
高温多湿な環境で、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなることによって発症する障害の総称です。



A 水分補給や暑さを避けることなどが大切です

適切な予防方法を知り、ふだんから気を付けることで、熱中症を防ぐことができます。正しい知識を身に付けて、暑い夏を安全に過ごしましょう。

Q 熱中症の予防について

子供や高齢者が熱中症になり、病院に搬送されたというニュースを聞くことがあります。熱中症の予防方法を教えてください。



市への意見や質問、広報を読んだ感想などをお寄せください。
◎送り先 本所総務課
☎25-2111内線316